

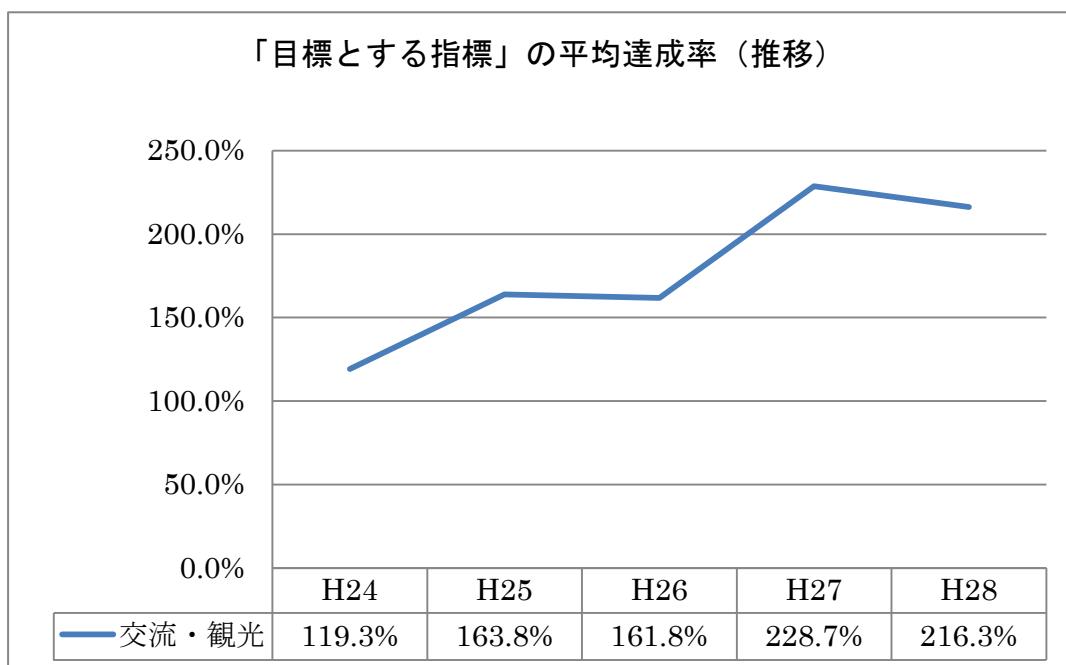
総合計画第2次基本計画（H24-H28）の総括

1 「目標とする指標」の達成状況及び主な取り組みと成果

総合計画第2次基本計画では、新世紀創造プロジェクトの取り組みの体系に沿って、政策テーマごとに「目標とする指標」及びそれぞれ5年間で達成すべき目標値を設定している。

この指標を活用した進行管理により、各政策分野における施策の整合性の確保や効率性の向上につなげてきたところであり、このたび5年間の達成状況と主な取り組みと成果についてそれぞれ取りまとめた。

(1) 交流・観光



- ・交流・観光に関しては、初年度であるH24より100%以上の達成率となっていることに加え、H28の達成率が216.3%とH24の数字と比べてほぼ2倍となっており、H27の北陸新幹線開業に向けた交通基盤整備や着地型観光の取り組みが数値に反映されたといえる。
- ・最終年度H28の「高岡駅・新高岡駅の乗降客数」が130.6%、「着地型旅行商品の参加数」が535.2%、「観光ボランティアが案内した観光客数」が427.5%の達成率となり、大きな成果として表れた。

主な取り組みと成果

平成 27 年 3 月 14 日の北陸新幹線開業によって、新幹線と並行在来線（あいの風とやま鉄道）、北陸自動車道による日本海沿岸を横断する東西軸と東海北陸自動車道、能越自動車道による中京圏から能登へ縦断する南北軸が交差する高速交通網の十字路を有する地域の中核的都市としての地理的優位性を確立するため取り組みを進めてきた。

新幹線新駅である新高岡駅の設置に伴い、駅周辺整備として駅前広場や水辺空間を取り込んだ公園、約 800 台分の駐車場の整備を行うとともに、新高岡駅へのアクセス道路として能越自動車道高岡 IC から富山市方面へ抜ける県道高岡環状線の整備や市の中心部を取り巻く 2 つの内外環状線などの交通基盤の整備を大きく前進させ、『飛越能の玄関口』として交通結節機能を強化してきた。

また、橋上駅舎になった高岡駅は、南北自由通路による往来の利便性の向上に加え、万葉線の駅構内までの延伸やステーションビル「クルン高岡」のリニューアル、駅周辺の主要な施設を結ぶ人工デッキの整備によって、地域公共交通の拠点として交通結節機能を強化した。

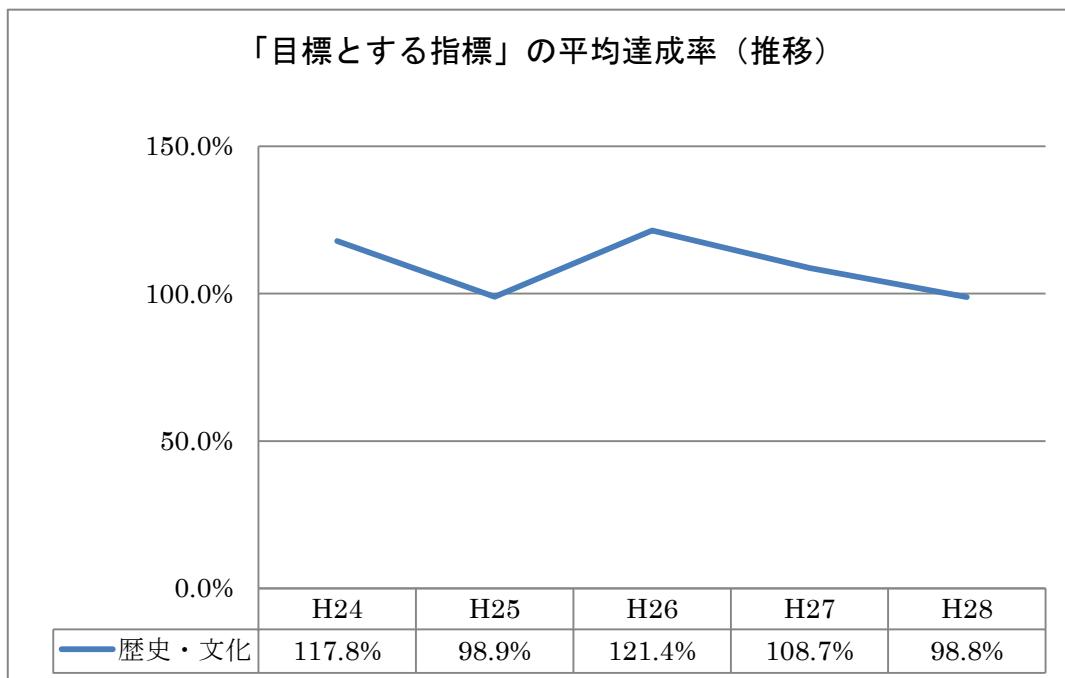
この二つの駅のアクセス向上のため、JR 城端線への新駅の設置をはじめ、路線バスのルート再編による両駅間を 10 分間隔で結ぶ「シャトル 6」の運用のほか、新高岡駅から瑞龍寺へ散策を楽しみながら訪れることができる「瑞龍寺道」の道路整備を行うなど、便利で移動しやすい公共交通網の充実を図った。

高岡駅・新高岡駅を核とする都心エリアの拠点性を高めるこれらの取り組みを交流人口の拡大につなげるため、飛越能地域や県西部 6 市それぞれの魅力ある観光資源を生かした観光クーポン等、着地型観光商品の造成や台湾の旅行会社への営業訪問、現地メディアの招へいなど広域観光・インバウンド施策を進めてきたことで、市内の主要観光地である瑞龍寺の入込数が開業前に比べて 134%～155%、また、外国人宿泊者数が 137% となるなど、確実に成果として表れている。

中心市街地においては、空き店舗の解消などの課題はあるものの、飲食店をはじめとする新規開業数が確実に増えてきている。

また、平成 23 年度に伏木富山港が日本海側の総合的拠点港に選定され、そのうち伏木港については、国際フェリー・国際 RORO 船及び外航クルーズをテーマとした拠点港として位置付けられたことを契機とし、ロシアや上海の船舶会社へのポートセールスを強化してきた。外航クルーズ船の入港数はまだ年間 10 隻を超えないが、平成 25 年度にはクルーズ客船歓迎クラブを立ち上げ、2,100 人余りの会員の中には外国语の通訳ボランティアを担う者もあり、寄港地のおもてなしの体制が整ってきている。

(2) 歴史・文化



- ・歴史・文化に関しては、概ね 100%の達成率となっているものの、全体として大きな数値の伸びとはなっていない（※年ごとの上下は、隔年指標があるため平均値に影響していると考えられる）。
- ・「歴史・文化施設入込数」は H27 の新幹線開業や御車山会館の開館によって、最終年度 H28 では 101.3%、また、「文化財等の修理受注額」は計画期間を通して目標値を大きく上回っており、H28 では 152.9%の達成率となった。

主な取り組みと成果

平成 23 年度に国に認定された高岡市歴史まちづくり計画の策定を 1 つのターニング ポイントとして、平成 24 年度に山町筋に続き市内 2 か所目となる『金屋町重要伝統的建造物群保存地区』が選定され、平成 26 年度は雨晴海岸の「女岩」（H27.10「義経岩」追加）を含む一定の範囲が『おくのほそ道の風景地』として名勝指定、平成 27 年度には市民の憩いの場となっている高岡古城公園が、『高岡城跡』として国史跡に指定されたほか、国宝瑞龍寺をはじめとする歴史的建造物や高岡御車山祭などの地域固有の祭礼・年中行事と相まって、「高岡らしい」風情や情緒、たたずまいを形成するに至っている。これら高岡の歴史・文化のひとつひとつを磨き上げる取り組みが『加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡一人、技、心一』として、平成 27 年度に日本遺産（JapanHeritage）に認定という形で実を結び、評価されている。

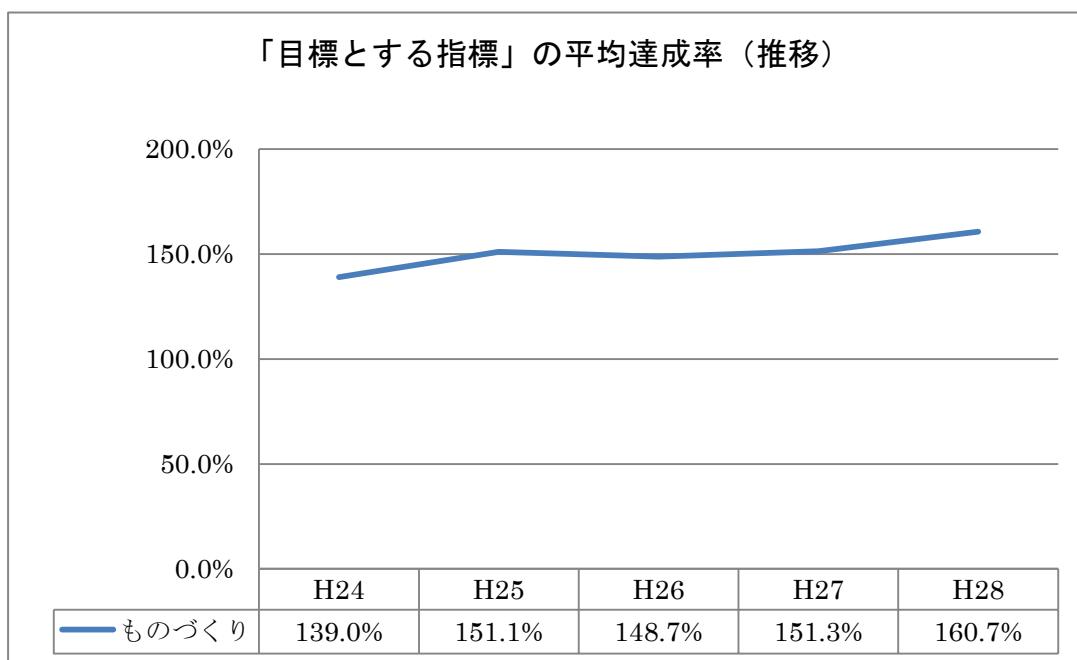
さらには、『高岡御車山祭の御車山行事』がユネスコ無形文化遺産に登録され、重要有形民俗文化財である高岡御車山を年中楽しむことができる施設として山町筋に整備

した御車山会館では、天皇・皇后両陛下にご視察いただく榮誉に恵まれた。

また、重要伝統的建造物群保存地区である山町筋及び金屋町における修景事業や無電柱化などの景観の取り組みも進んできており、日本遺産認定やユネスコ無形文化遺産登録といった高岡の歴史・文化の価値の底上げによって、これらの歴史的町並みへのカフェやレストラン、ゲストハウス等の新規開業が増加してきている。

これら高岡固有の歴史的背景を享受しながら、現代の潮流を取り込んだ新たな文化の創造の試みとして、ダンスとアートが融合した舞台公演「進化する森『森とこどもとダンスとアート』」やさらに歌と演劇の要素を取り入れた「キッズ・パフォーマンスたかおか『えっ？ミュージカル！！』」、さらには創作現代バレエ「くるみ割り人形」公演及びミュゼふくおかカメラ館企画展「め・目・メ」展の2企画で構成する地域創造助成事業「五環の森プロジェクト」に複数年に渡り取り組み、高岡に根を下ろした市民文化の担い手の発掘と文化芸術に身近に触れる事のできる環境づくりを進めている。

(3) ものづくり



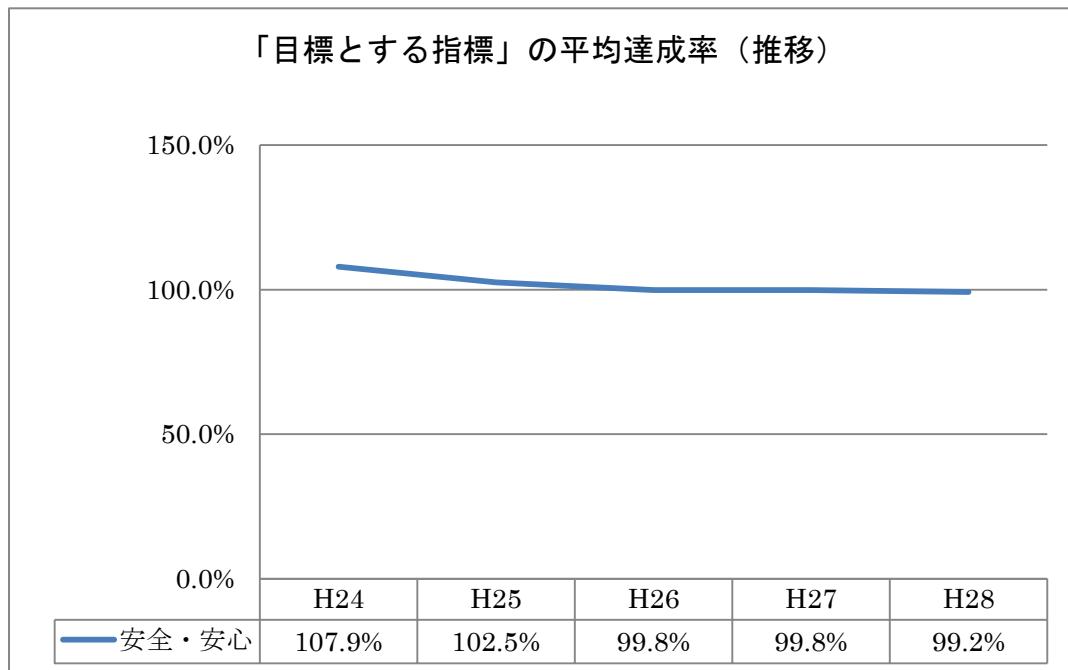
- ・ものづくりに関しては、初年度であるH24より100%以上の達成率となっており、意欲ある地域企業の新分野進出や新事業展開の支援の取り組みが数値に反映されたといえる。
- ・特に、「企業訪問等による企業支援件数」は毎年400件超の訪問により、目標を大きく上回っている。また、「高岡市の新分野開拓チャレンジ補助事業の採択企業数」や「企業立地助成金の交付件数等」も毎年100%を超える達成率となった。

主な取り組みと成果

新事業展開・新分野進出を図る意欲ある企業を支援し新たな産業の創造を図るため、国や県、産業支援機関、研究機関、金融機関等と連携し、いわゆる前垂れ精神で市職員自ら年間延べ 400 件超の企業訪問を行い、企業ニーズの解決、シーズのマッチングを図り、創業から研究開発、製品化、販路拡大に至る各段階での企業ニーズにワンストップで対応する新産業創造プラットフォーム体制の充実に取り組んできており、伝統技術を生かし、今日的なデザインや機能を取り入れ、現代のライフスタイルに合う新しい商品の開発・販路開拓、地域資源の活用、新技術・新素材の研究・開発などに取り組む市内中小企業が年間約 20 社（※チャレンジ補助事業の採択企業数）にのぼるなど、産業の高度化・競争力強化へのチャレンジが実を結びつつある。

既存企業団地は、北陸自動車道における高岡砺波スマート IC の運用開始や七尾氷見道路の開通などのアクセス環境の向上により、高岡オフィスパーク 4.0ha が完売した。未分譲の四日市及び大滝工業団地においても複数の問い合わせがあり、市内における企業の設備投資が増えてきている。

(4) 安全・安心



- ・安全・安心に関しては、概ね 100%の達成率となっている。
- ・「徘徊認知症高齢者の検査協力団体の実施箇所等の数」は、達成率は 60%ほどに留まったが、実数としては基準数値の約 4 倍にあたる 312 箇所まで増やしている。

- ・また、「ごみの再生利用量」は、年々ごみの量自体の減少に伴い、再生利用量も比例して減少しているものと考えられる。

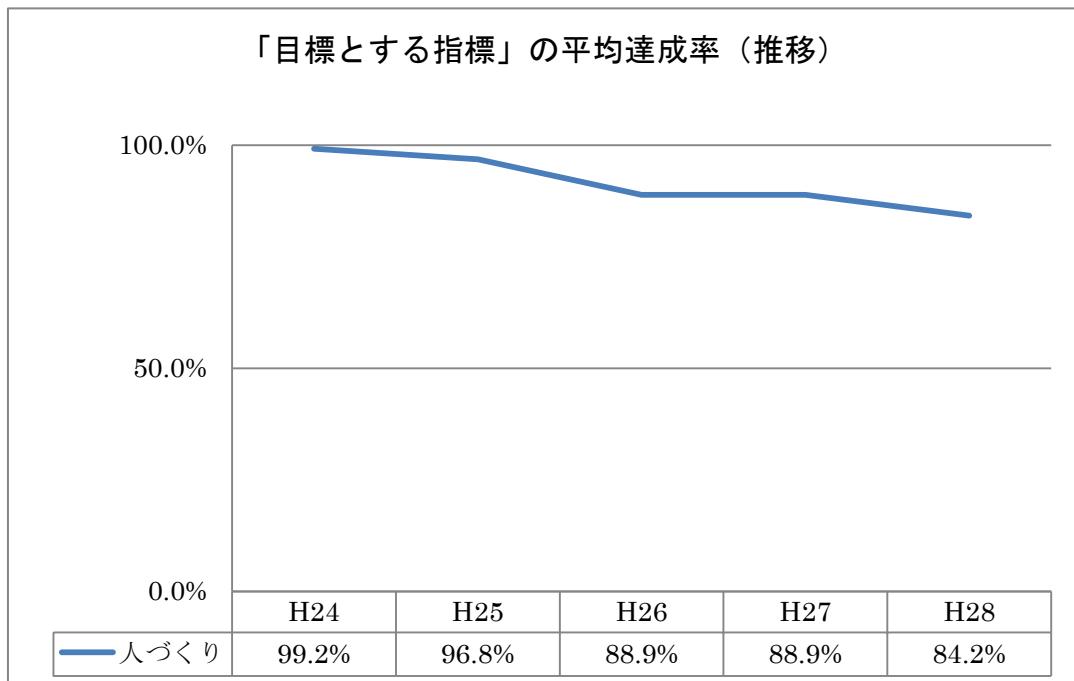
主な取り組みと成果

地域の多様な福祉課題を解決することを目的に、顔の見える日常生活圏である小学校区単位で、地域住民、ボランティア団体、福祉サービス事業者、行政等が連携し、それぞれの役割と特色を生かしながら、地域で支え合う体制づくりとして高岡あっかり福祉ネット推進事業を平成24年度よりスタートさせ、主に地域福祉の知識を深める講演会や研修会の開催、福祉マップの作成、命のバトンの配布、中山間地における移動販売の実施など各地域の実情に応じた生活・福祉ニーズの把握とその解決方法の検討、声掛けや見守りなどの支援活動に熱心に取り組んでいただき、地域でともに支え合う互助、共助の意識醸成を図ってきた。

また、あっかり福祉ネットを基礎に、広域的な日常生活圏である中学校区を単位とし、医療や専門職による介護等の福祉サービスを包括的に提供し、高齢者支援を行う高岡型の地域包括ケアシステム「高岡あっかりライフ支援システム」の構築にも取り組んできており、地域住民同士が支え合い、必要な人が適切な支援を受けることができるネットワークづくりを実現している。

災害に強いまちづくりとして、自分たちの地域を自分で守るという意識を持ち、日ごろの防災訓練などにより災害時の被害を最小限に抑え、その拡大を防止するために結成する自主防災組織は、平成23年度が428組織だったのに比べ平成28年度には504組織となっている。また、未結成自治会への結成促進や既に結成されている組織の活性化及び継続、他団体との連携など、広域的な自主防災力の強化を図ることを目的とした校下（地区）自主防災組織連絡協議会についても、平成28年度は18団体となっており、両組織あわせて年間300件を超える防災訓練（わがまち訓練）を実施するなど、自助、共助の重要性を市民一人ひとりが認識できる体制を強化し、地域防災力が向上してきている。

(5) 人づくり



- ・人づくりに関しては、達成率が計画期間を通して 100% を下回った。
- ・特に「平日の 19 時まで開設が可能な体制を整えることができる放課後児童育成クラブの数」は、支援員等の不足による理由から低い達成率となった。

主な取り組みと成果

地域の子育て支援の拠点施設である高岡子育て支援センターを平成 23 年に御旅屋セリオ 8 階に移設オープンし、土日も利用可能としたことに加え、「まちなかキッズステーション」の増築や一時預かりの開始などサービスを充実してきており、乳幼児を持つ親の子育てに関する悩み相談の場として、また、親子の交流の場として認知度も高まってきたている。

また、保育園や認定こども園については、平成 27 年度には万葉なかよし、はおかの 2 つの保育園を整備して、定員を 40 名拡充し、平成 28 年度には、新たに事業所内保育を行うあさひ保育園が整備された。平成 27 年度からは、乳幼児期の子どもが、保護者の就労の状況などに関わらず教育と保育を一体的に受けることができる環境づくりを進めるため、認定こども園への移行を推進し、平成 28 年度では幼稚園 3 園と保育園 3 園の移行が実現している。

小学校の児童の居場所づくりのための放課後児童クラブは、平成 27 年度より対象年齢が小学 6 年生までとなったことや共働き世帯の増加などによるニーズの高まりに対応するため、すべての小学校校区に計 29 クラブを整備するとともに、規模や指導内容の充実、利用時間の延長等に取り組んできたが、支援員等がシニア層中心となっているこ

とから、人員の確保に課題があり、利用時間の延長等のニーズには十分に応えられない。

その他にも、孤立しがちな子育て世代が必要な情報を簡単に得られるよう、子育て支援アプリ「ねねットたかおか」のサービス開始や心が不安定になりがちな産後の母親をケアする事業などを実施し、未来の高岡市を創るすべての子どもが健やかに成長し、また親が子育ての不安や負担を乗り越え、喜びや生きがいを感じることができるよう、地域や社会全体が支え合えるような環境づくりを進めてきた。

一方で、市内の3つの看護専門学校を統合した富山県高岡看護専門学校が高岡駅前東地区の核施設として整備した soraе 高岡内に開校し、今後の少子高齢化の進行に伴う医療や訪問看護、介護施設など福祉の分野における看護師の需要の高まりに対応し、県西部地域における看護人材の養成、確保に向けた体制づくりを実現することができた。

2 第2次基本計画の総評

総合計画第2次基本計画では、重点的に取り組む施策を再構築し、開町400年を経た高岡ならではの地域資源に光を当て、磨きをかけ、これらをつなぎ結ぶことで新たな魅力をつくり出すという「磨き」「つなぎ」「創る」をキーワードとして5本柱で構成した高岡新世紀創造プロジェクトを打ち出しており、その中では、ものづくりのみならず、特に歴史・文化を高岡の特色として明確に打ち出し、これらを活用した交流・観光を高岡の産業の柱の一つとして育て上げ、北陸新幹線の開業を契機として高岡の拠点性を高めていくことを目指した。

この5年間で、先人たちから受け継いだ歴史・文化資産に磨きをかけ、見慣れた風景や町並みを再評価し、価値を見出すことにより、このまちが醸し出す風情や情緒、たたずまいがまさに「高岡らしさ」であり、誇りと愛着を持つことのできるまち高岡の特色がより明確になった。

また、ものづくりの分野では、市内メーカーの素材研究や市場調査に基づく地道な販路拡大などの企業努力により、多くの人々の生活にうるおいと充足感を与える新商品が次々とヒットしており、いわば「高岡ブランド」と呼ぶべきジャンルを確立しつつある。

この歴史・文化とともにづくりという2大看板を掲げ、北陸新幹線という交流装置の開業を活かし、交流の拡大や観光振興に力を注いできたことで、瑞龍寺をはじめ多くの観光客が高岡に訪れ、外国人も含め町並み散策やものづくり体験を楽しむ姿をよく見かけるようになり、来訪者を意識した飲食店等も徐々に増えている。

一方で、近年、少子化の進行や核家族数の増加に伴い、保育ニーズが多様化する中にあって、子どもを生み育てるという若い世代の希望を叶える社会、子ども達が安心して健やかに成長できる社会の実現に向け、子ども・子育て支援事業の充実にさらに取り組んでいく必要がある。

以上のことから、この5年間の取り組みを通し、これから的人口減少社会でも着実に歩みを進めるため、新たな100年を見据えた本市の強みと課題を明らかにすることができたと考える。

3 第3次基本計画に基づく主な取り組み（リーディングプロジェクト）

市民一人ひとりにとって住みやすく、豊かな自然と歴史・文化につつまれる中で、誇りをもって創造的に挑戦していくまち『市民創造都市 高岡』の実現を目指すため、「まち」「ひと」「しごと」づくりに重点を置き、戦略的な施策展開に取り組んでいく。

(1) 「まちづくり」では、新高岡駅から高岡駅を経て中心市街地に至る都心軸への都市機能の集約と都市構造の転換を進め、人口減少下にあっても持続可能な定住の促進、選ばれる都市づくりを推進する。

多様なひとが住みたいと感じるまち

①たかおかウェルカムサポート

- ・金屋町など歴史的町並み等における定住の取り組みを支援する。

②UIJ ターンによる人材確保の推進

- ・たかおか企業人材確保推進協議会（商工会議所、ハローワーク、高岡市で構成）による開業、起業支援に取り組む。

③防災まちづくりの推進

- ・密集市街地である博労地区の地域住民が主体的に取り組む防災まちづくりと共に創し、まちなか防災力の向上に取り組む。

快適に暮らせ、創造的に活動できるまち

④空き店舗等を活用したリノベーションまちづくりの推進

- ・リノベーションスクールの開催を通じた人材育成と遊休資産の活用に取り組む。

⑤とやま呉西圏域連携中枢都市圏による連携事業の推進

- ・圏域全体の経済成長や住民サービスの向上を目指し、地域交通や産業、医療・福祉等の連携事業に取り組む。

(2) 「ひとづくり」では、若者が住みやすく、子育てしやすい環境となるよう子どもの24時間を支える高岡型子育てシステムの構築に取り組む。

安心して子どもを生み育てられるまち

①認定こども園への移行推進

- ・保護者の就労状況に関わらず教育・保育を一体的に提供する認定こども園への移行を推進する。

②多様な保育サービスの充実

- ・病児や体調不良児保育、延長保育、一時預かり等について、重点的に確保に努める。

③子育て支援センターの充実

- ・地域子育ての拠点である子育て支援センターを教育・保育提供区域すべてに設置し、子育て相談員による支援体制の充実を図る。

④地域子育て広場事業

- ・気軽に集い、相互交流や子育ての悩みを相談できる場づくり、民間独自の視点から地域で支え合う環境づくりを支援する。

⑤放課後児童クラブの充実

- ・年齢要件の拡大に伴う利用者ニーズの増加に適切に対応するため、小学校の余裕教室等を活用した放課後児童クラブ室の確保に向け取り組むとともに、子育てに興味のある地域の方やボランティアを活用するなど支援員等の不足に対応していく。

(3) 「しごとづくり」では、ものづくりの強みを活かした魅力的な仕事に挑戦できるよう産業団地の整備と企業誘致、国内外の販路拡大や起業・創業の促進に取り組む。

魅力的なしごとに挑戦できるまち

①戸出西部金屋地区における産業団地の造成

②金屋铸物師町工房（仮称）の整備

- ・金屋町において、ものづくり産業に携わる若手技術者等の技術向上や産業振興また、地域内外の方々との交流を通じた人材育成等の拠点施設の整備に取り組む。

③高機能素材等の研究・開発の促進

- ・地域産業のイノベーションに必要となる高機能素材の研究・開発に伴う活動を支援する。

④企業の新分野進出や新事業展開に対する支援

- ・国や県、産業支援機関、研究機関、金融機関等と連携し、企業ニーズの解決、シーズのマッチングを図ることで、新分野進出・新事業展開をする意欲ある企業を支援する。